

(新規課題)

NO. 9	技術開発 課題名	入戸火砕流堆積物（シラス）を利用した建築分野における 次世代型コンクリートの技術開発	
事業者	・山下 保博 株式会社アトリエ・天工人 代表取締役 ・野口 貴文 東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻 准教授 ・武若 耕司 鹿児島大学 大学院理工学研究科 海洋土木工学専攻 教授 ・佐藤 淳 東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻 特任准教授 ・伊藤 司 東京エスオーシー株式会社 常務取締役 ・東 和朗 株式会社 プリンシプル 代表取締役		
技術開発 経費の総額	約49.4百万円	技術開発 の期間	平成25年度～27年度
□1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 ■2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 □3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発			
背景・目的	廃棄処分されているシラスを建築物のコンクリート材料に利用することで、良質な天然資源の保全、コンクリートの高耐久化を図る。		
■技術開発の概要			
本研究開発は、①南九州を中心に、宅地造成による産業廃棄物として処理されるシラスの有効利用、②その事による天然砂（枯渇性天然資源）の削減、③土木向けに開発されてきたシラスコンクリートの実績があるにも関わらず建築転用が難しい状況、④低炭素化社会で求められるコンクリートの高耐久化、⑤これまで開発されてきたコンクリート技術の検証と普及、の5つの要素が求められる背景にある中で、住宅市場へのシラスを利用したコンクリートの製造から普及までを含めた技術開発を目的としている。			
			
シラスの地山		コンクリート用のシラス	
			
写真1：鹿児島県での火砕流堆積物分布		高流動シラスコンクリートの試験練	
総評	廃材となっているシラスの利用に着目して高耐久のコンクリートを開発するものであり、先導性がある。		